

介護ステーション ぶらんち ニュースレター

Vol. 101

令和7年5月号

五月晴れの5月。港区の道路に異変が…

ようやく、気持ちいい季節がやってきました。
私達、自転車で動くには、心地いい季節です。
そう、この自転車で動く者にとっては、
とってもうれしいことが、道路に起こり始めています。
今まで、道路の路肩に自転車ロードが設けられていたり、
歩道にも真ん中から右が歩行者、左が自転車、というように、
分かれていました。
が、路肩の自転車ロードは車の路肩駐車で通れない。
歩道の自転車ロードは、歩行者と自転車が分かれていること自体を
知らず、自転車ロードに歩行者が歩いていることがザラ。

そんな現状でしたが、
港区自転車通行空間整備計画により、
路肩の自転車ロードが路肩駐車スペースを別に設ける事で、
自転車専用になりつつあります。
全ての港区の道路が上記のようにまだ整ってはいませんが、
整いつつあります。
計画は私達、介護職・福祉職のためではなく、子育て世代が子供を自転車に乗せて走りや
すいように、という課題解決策のようですが…理由は何であれ、時間との勝負の私達介護
職にとってはうれしい課題解決策です。



介護業界を盛り上げよう！！

最近、思うことがあります。
介護業界に携わる方が
「出来ない事」「出来ていない事」に注力し過ぎている
のではないか。
確かに、出来ない事や出来ていない事を注力することは
失敗しないことにもつながるので、
間違ってはいないこと。
ただ、2001年にWHO「世界保健機構」がICFの考え方を
提唱したように、
本人が残された能力の増大を図ることに
注力しましょう、といった内容とは
少し違った方向性になっているのではないか
ICFの考え方の前はICIDHの考え方方が主流でした。
ICIDHの考え方とは、障害の階級製性。
つまり、何が出来ていないか、
出来ない事に注力して
それを補うには…という発想で物事を見る。
人が自分らしい生活を送るには、
出来ない事を知ることは非常に重要ではありますが、
それで、物事が進んでしまう、は
その人の生活の質がどんどん下がっていってしまう。
出来ない事、出来ていない事を知り、
次に何が出来ているのか、をしっかりと見る。
出来ている事を維持、発展させていくにはどうするのか、
の視点で物事を進めていく。
もちろん、出来ていない事にも注意はしていく。
そのようなイメージ・意識が広まることを望みます

ぶらんちの今を紹介

今、ぶらんち、では、
介護についての「基本のキ」の動画を
取り始めています。

今年度は、
介護技術、主な病気の理解、について
実施予定です。

来年以降は、
介護についての意識の理解や
認知症という病気の理解
生活援助の「基本のキ」
を実施していきます。

訪問介護の仕事柄、
スタッフ同士がなかなか顔を合わせる時間が
少ない、という課題があります。
課題解決策として、
動画で基本を撮り、
それをひとつの課題解決のツールとして利用
していく。
そんな想いで月2回の動画撮影を始めています。